

福井・福井城跡

- 所在地 福井市中央一丁目
- 調査期間 一九九三年(平5)六月～一九九四年一月
- 発掘機関 福井市教育委員会
- 調査担当者 坂 靖志・三澤繁忠
- 遺跡の種類 城郭跡
- 遺跡の年代 一七世紀～一九世紀
- 遺跡及び木簡出土遺構の概要

福井城跡は、慶長六年(一六〇一)結城(松平)秀康の築城以来、幕末まで越前松平家(一七代)の居城として利用された城郭遺構である。

その立地は、福井平野を西流する足羽川右岸、現在の福井市中心市街地とほぼ重なる。現在では本丸石垣が堀とともに残るのみである。

標高は10m前後を測る。



(福井) 城跡

福井城跡に関する発掘調査はほとんど行なわれてこ

なかつたが、一九八〇年代

以降の市街地再開発の増加に伴つて徐々に増えている。今回の発掘調査も民間ビルの建て替え工事に起因するものである。発掘調査は二次に分けて行なつたが、調査面積は合わせても一五〇m²と狭少であった。遺構としては、溝・柱穴・石垣遺構などを検出したが、遺構面を含めて時期の特定できるものはなかつた。出土遺物も少なく、近世の灯明皿を除けば古代以前の土器が若干出土したにとどまる。

木簡は、一次調査区南側で確認した戦前のコンクリート基礎掘形埋土を掘り下げている際に検出したもので、本来の遺構の特定はできない。

8 木簡の积文・内容

(1) 「△舞や右衛門」

(75) × 20 × 3 039

木簡は、上部の両側に切り込みをいた付札で、下端は破損している。切り込みはやや大きく、左右不揃いな形をしている。紐を付けた痕跡は残っていない。文字は片面にのみあり、墨痕も比較的明瞭である。残存部分の内容は人名と思われるが、如何なる人物か詳らかでない。

(1～7 佐藤 靖志)

